

こども通信

雪国なのに雪のない冬を過ごして
います。雪がないとこんなに生活が
楽だと知つてしましました(笑)。

でも、雪がなくて困っている人たち
も少なくありません。また水不足
があとで大きな問題になるかも。

そして、来年の冬、いつものように
雪が降ると気持ちが萎えてしまう
かも。ほじほじが一番ですね。



インフルエンザが今冬も
大きな流行に。毎年、メイ
ンになる型が違つたり、規
模は変わりますが、流行し
ない年はありません。

アメリカではかつて経験したこと
がないほどの大流行になつていて
のこと。政府機関のCDC(疾病予
防管理センター)の発表では、すで
に2千万人が罹患し、最大2万人が
死亡していると推計(例年は500

の治療薬は効果なく、重
篤化していくケースが多
くになります。

その段階ではすでにタミフルなど
の治療薬は効果なく、重
呼吸状態が悪くなるなど、重症に
なつてから病院を受診します。

人ほどの死亡)。さうに子どもが死
亡も数十人でいるそうです。

アメリカでは発熱があつてもすぐ
に受診しません(できない仕組み)。
まず数日は自宅で、市販薬を使いな
がら休み、その後高熱が続いたり、
呼吸状態が悪くなるなど、重症に

塙田こども医院

小児科・アレルギー科
上越市栄町2-2-25
TEL 025-544-7779(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

各種ネット予約
www.0255447777.com/i
ホームページ
www.kodomo-iin.com

感染症情報

インフルエンザがまた大きな流行になっています。今シーズンは例年よりも早く流行が始まり、12月に大きな流行になりました。年末年始でいったん下火に向かったのですが、やはり1月中旬から流行が拡大し、再度大きな流行になっています。県内全体に「注意報」も出されています。引き続き注意をお願いします。

これまでの流行はA型のH1が主でしたが、今後はA型のH3やB型の流行がおきるおそれもあります。

寒気やだるさを伴った急な発熱が特徴。迅速診断が役立ちますし、抗インフルエンザ薬(タミフルなど)の使用が症状経過の軽減や、肺炎などの重症合併症の予防に効果的です。

むやみに人混みにでかけない、手洗いをしっかり行うなど、予防に努めてください。

感染性胃腸炎の発生がやや増加中で、「注意報」が出されています。RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症の発生が続いている。気管支炎、肺炎をおこす感染症で、伝染力も強く、集団発生しがちです。園での流行状況に気をつけて下さい。

溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎も少しづつ発生があります。いずれも発熱と咽頭痛が特徴です。溶連菌感染症では的確な抗菌薬による治療が必要です。

風疹や麻疹の発生は当地ではありません。

マスク着用のお願い

- インフルエンザの流行に加えて、中国発生の新型コロナウイルス感染症の動向が心配されています。マスクの予防効果は確実ではありませんが、他の方への飛沫感染を防ぐ効果はあります。
- 発熱、咳、くしゃみなどの症状がある方は必ずマスク着用を励行して下さい。
- くしゃみをする時はティッシュペーパーやハンカチで。それがなければ袖で口と鼻をおおいましょう。手の平を使つてしまったら、直ちに洗い流してください(咳エチケット)。

今月の予定

院長出務

- 上越市乳幼児健診 5日
上越市休日診療所出勤 11日
上越市夜間診療所出勤 19日(副院長)
上越有線放送 「健康ライフ」18日
FM上越「Dr.ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃~(76.1MHz)
感染症情報(毎週)
FM上越:木曜午後1:35頃~
上越有線放送:月曜午後6時~(番組内)

コロナ新型肺炎

た伝染力は肺炎になつたあとからなので、むやみに拡がるわけではないから。こういったことで「封じ込め」が成功しました。

中国の武漢で発生したコロナウイルスによる新型肺炎が大きな流行になつています。中国国内も広範囲に相当数の患者発生があり、また国境を越えての拡がりもみせています。

ニュースでは毎日、患者数や死亡数が増加。今後もさらに拡大していくものと思います。

発端は野生動物をそのまま売る市場。当初は動物からヒトへ。そして今はヒトからヒトへの感染もはつきりしてきました。

●SARSより強力?

同じコロナウイルスによる呼吸器感染症では、2002年に同じ中国でSARS(重症急性呼吸器症候群)が発生しました。中国を中心にして約8千人が罹患し、約8百人が死亡しましたが、1年後には終息させることができました。

それは、SARSがとても重症で、発症すると早期に入院になり、一般の方との接触時間が少ないので、むやみに拡がるわけではないから。こういったことで「封じ込め」が成功しました。

ところが今回の新型肺炎(まだ名前は付いていません)は、肺炎になる前の無症状の時期(潜伏期)にもすでに伝染力があります。また比較的軽く済んでいる罹患者もいるようですし、もしかしたら発症しないまま終わっている場合(健康保有者)もあるようです。

まで終わっている場合(健康保有者)

こういった方はそのまま普通生活を送っているので、周囲に伝染させることが往々にしておきてします。元気にウイルスをばらまいている状態です。

これでは封じ込めが容易ではないでしょう。やはり世界規模での拡大を懸念しなくてはいけません。

また、新しく発生したウイルスですので、地球上の全ての人たちはこのウイルスに対する抗体を持つていません。ひとたび世界中に「火種」が飛び散れば、その後各地で大きな「火災」になつてしまふでしょう。

経験的漢方論(14)

もしかしてコロナ肺炎にも漢方?

多少漢方を日常臨床の中で用いているだけで、決して漢方の専門家ではない私が言うのはとてもおこがましいのですが・・今問題になっているコロナによる新型肺炎には漢方が一助になるのでは、と思っています。

重症肺炎になればそれなりの対応をします。入院の上で酸素を使い、輸液をし、各種の薬を使うことになるでしょう。ある意味で対症療法の域をでません。

漢方なら何とかならないか。重症にならないよう、呼吸器症状に効果のある漢方を使う。免疫能を高める漢方もあります。あるいは、体力増強を期待できる漢方をあらかじめ使っておくことで予防する。何か、出番がありそうです。

かつてスペイン風邪が大流行した時に漢方が多くの人たちを助けた、という記録があります。1918年にパンデミック(世界的大流行)をおこしたスペイン風邪は、アメリカ発生の新型インフルエンザ(H1型)だということが後日分かっています。わずか2年ほどで世界中で5億人が感染し、5千~1億人の死者がでたそうです。日本では人口5,500万人のうち40万人ほどが死亡しましたとすると推計があります。

日本では漢方医が治療に奔走した状況は想像に難くありません。その中で、疾患の見方、処方の仕方などの経験が積み重ねられました。実際にどれくらいの効果があったのか、私には詳しいことは分かりませんが、でもその時に積み重ねられた知見が今でも役立つのではないか、と考えています。

漢方がコロナ肺炎から地球を救う・・私の夢かも。私なりに少し勉強を進めています。今回は「未経験」の漢方論で失礼しました。

新しく発生したウイルスが世界に拡がった例はこれまであります。

重症者や死亡者を出さず、翌年以降は季節性インフルエンザとして流行が続いています。

2009年春に北米大陸で発生したブタ由来の新型インフルエンザは半年ほどで世界中に拡大。

一方でワクチンはその年の秋から供用され、迅速検査も使用でき、さらにはタミフルなどの抗ウイルス薬も有効でした。とくに日本ではさほど

クチン、迅速キット、治療薬が使えるようになれば、それなりにコントロールできることでしょう。
今後の動向をしつかり見守っていただきたいと思います。